

えんど久子県議ら大分県に来年度の予算要望 223項目

人間らしく働く環境作りを

26人が参加し熱心に協議

10月25日、事前に提出していた大分県への来年度予算要望について協議しました。県内の地方議員や団体の役員など総勢26名が参加。

10時から4時まで、総務部・福祉保健部、県警など9部局とメガソーラー問題、年金問題、信号の要望など、223項目にわたり要望し、重点項目について話し合いました。

先生のなり手がない

参加者は、「30人学級や正規教員の増員は、保護者や子どもたちの願いでもある」「欠員が小中学校で37人、高校で3人もあるとのことだが、ブラックな働き方であるために、なり手がなく教育現場では困る」「長時間労働は正のため、教員増員、業務の軽減などの具体策を」と訴えました。

30人学級1学年5〜6億円

「少人数学級の拡大には、国の定数配分が不可欠であり、引き続き国に要請していく」と県教委。えんど久子県議は「先生になりたいと思ってももらえる環境を作るのが行政の仕事だ」と強く求めました。

10月中旬の決算特別委員会でのえんど県議の質問に「県単独で1学年30人学級にするために5億〜6億円必要だ」との答弁でした。大分県の予算約6500億円に対しての6億円とは、65万円に對する600円と同じです。ぜひ実現させましょう。

過労死ライン超え609人

この場で求めた資料で、県立高校の月の時間外勤務は、過労死ラインの80時間超が今年5月に369人、100時間超が214人（計583人）。昨年10月には80時間超えが404人、100時間超が205人（計609人）だとわかりました。深刻な事態であり、対策を急がなければなりません。



挨拶する共産党の林田県委員長と埴・えんど両県議ら参加者。この後、2会場に分かれて熱心に協議。 2019. 10. 25. 大分県議会委員会室にて

県の来年度予算について要望し話し合う

公立病院の統合・再編問題

地域の病院を守るために

厚生労働省が再編・統合を求める公的・公立病院名を公表。杵築市立山香病院など県内の3病院も含まれていました。25日の県予算要望で、地域の拠点病院を守り存続させるよう、国に強く求めることを要望しました。

全国一律のやり方はよくない

大分県は「地域により公立・公的医療機関等の果たす役割は異なることから、全国一律の基準により分析したデータだけで再編統合を推進することは適切ではなく、地域の住民の不信を招いている。このため、全国知事会を通じて国に意見を提出している。厚生労働省の分析だけではわからない地域の実情や当該病院が担っている役割、今後期待される役割などについて、地域の関係者とも慎重に協議していく」との回答でした。

地域の声を聞くべき

この問題は、9月県議会の福祉保健生活環境委員会で、えんど久子県議が「地域の声を聞き、地域医療を守るべき」と質問。同様の答弁がありました。

10月25日の協議で、美馬きょうこ市議は、第7次医療計画について実情をふまえた見直しをすること、医師や看護師などを増員することも求めました。

生活と健康を守る会

大分県に要望



生活と健康を守る会大分県連合会は、要望と回答にもとづいて大分県の各課と協議。低所得者へ熱中症対策のための支援や県営住宅の要望などを求めました。写真は左からえんど久子、美馬きょうこ、堤栄三。

2019. 11. 15.

